

現代社会における生活体験の構造的変化と心理メカニズム（イメージメカニズム）の変化

2010. 12.25

PF 学会 課題研究

一. 現代社会で進行しつつある生活体験の構造的変化

1. 識字率問題の克服がもたらす生活体験の変化

- ・社会の大衆化

K.ヤスパース『歴史の起源と目標』1949

D.リースマン『孤独な群集』1960

- ・識字化と脱宗教化が結びつくとも出生率の低下が始まる。

E. ドット 『新ヨーロッパ大全』I

石崎晴巳訳 1992. 241-245 頁

2. 産業革命の更新

1) 家庭の電化

電気洗濯機 電気冷蔵庫 電子レンジ、電気炊飯器

電気掃除機 電話、FAX テレビ 空調

- ・「火をおこす」体験や「水を汲む」体験の世代的断絶

2) 交通・通信手段の技術革命

蒸気機関車—電気機関車—自動車や新幹線や飛行機（ジェットエンジン）—
ロケットや人工衛星

電話・FAX—パソコン・ケイタイ

ラジオ・映画—テレビ（白黒）—テレビ（カラー）—テレビ（デジタル）

- ・距離感覚の変化（歩く移動感覚と新幹線や飛行機による移動感覚の違い）

- ・生活体験における「間接的体験」の増大

テレビで見る海 （テレビで見る体験が直接的体験であるかのようになりつつある）

- ・郊外への移動が加速化し職業と住居の分離拡大

- ・社会のグローバル化促進

3) 化学繊維、薬品、化学肥料、冷凍食品等の技術開発 ナイロン、ペニシリン、ビニール

- ・衣生活・食生活の変化

4) 農業社会から工業社会をへて情報産業社会へ

梅棹忠夫『情報産業論』1963

ダニエル・ベル『脱工業社会』1973

A. ミッチャーリヒ『父親なき社会への途上にて』1963

3. 核家族化の進行がもたらす生活体験の変化

・ 共同体体験の減少（冠婚葬祭や出産・介護の分業化）－「間借り」「もらい風呂」「もらい水」

・ 個人的自由の増大（個室、マイカー、ケイタイ）

・ 子育て文化の断絶（核家族は直系家族と比べて世代継承が不連続になりやすい。）

・ 日本の直系型家族と核家族

E. ドットの四つの家族類型（前掲書参照）

絶対核家族、平等主義核家族、直系家族、共同体家族

4. 都市生活化の進行がもたらす生活体験の変化

・ 匿名的人間関係と孤立化

・ 社会関係資本（social capital）の低下（アメリカの場合－Bowling alone, 2000）

・ 故郷意識の喪失

5. 「家族」や「地域社会」の崩壊がもたらす生活体験の変化

1) 家族関係の変化

保険金殺害事件

金属バット事件（1980. 11.29）

2) 地域社会の変化

・ 池田小付属事件

・ 民生委員や消防団員等の充足率低下

・ 地域における神社等の維持管理についての裁判問題

・ 小売店や市場の減少とスーパー、コンビニの増大

・ 郊外型社会の増大

・ 過疎地域の増大

二. 生活体験の構造的変化とイメージメカニズムの変化

1) 貧困や差別の抑圧を受けたイメージメカニズムから共同体験不足の影響を受けたイメージメカニズムへ

「暗い闇」から「白い闇」へ 間主体性（共同主観性）が育ちにくい

- 2) 「第一次世界像」や「トーテム的思考」や「野生の思考」にポジティブな位置を見出しにくいイメージメカニズム
- 3) 自然事象や社会事象の直接的体験不足による言語イメージの希薄化
- 4) 夜型生活への移行とイメージメカニズムの変化
「朝のイメージ」や「夕方イメージ」が曖昧になりつつある。
- 5) イメージメカニズムの変化がもたらす言葉の意味変化(言葉の背景のイメージ変化)
「もやい」「もらい水」「もらい風呂」「間借り」等の死語化
「情けは人の為ならず」の意味変化

三. 現代社会において「生活が陶冶する」ことは可能だろうか
別紙参照

人間の生命活動の基層についての諸表現

ペスタロッチー (1746-1827)

「存在の最初の瞬間から自己固有の発展と拡大とに向って有機的に作用し、摂取しながら生産し、生み出しながら形成し、造形する現実の生命ある自主的の力」(教育課題としての「直観のABCの訓練」)

ヘルバルト (1776-1841)

「心理メカニズム (表象メカニズム・イメージメカニズム)」

「(生命の活気としての) 興味」(教育課題としての「興味の覚醒」)

表象群の統合過程において「対象把握を継続させる機能としての単純な感覚表現の強度に関する研究から、心理学的に完成された品性陶冶の理論に至るまでの道のり、それはなんと遙かな道であろうか。この道にはまだ深い夜のとぼりがおりにいる。そしてこの道は徹頭徹尾、教育学の暗き側面に続いているのだ」(Herbarts sämtliche Werke, Bd, 3, S.149)

フレーベル (1782-1852)

「(生命の) 予感能力」「(教育課題としての) 生命の合一」

フロイト (1856-1938)

「こういった象徴的表現は…無意識なあらゆるイメージ表現ごとに一般大衆のすべての集団表象、たとえば民間伝承、神話、伝説、格言、諺、ふだんの地口に見出される」(『著作集 第2巻』291頁)

ソシュール (1857-1913)

「ランゲージュ」(潜在的言語能力・共同主観性)

「ランゲージュはそのいかなる発現形態においても実質を呈することはなく、ただそこにあるものは、生理的、物理的、精神的な力の結合されたり、引き離されたりする活動だけである」(手稿9. 断章番号 3295)

「原始社会や未開社会においては、家族組織、食物、儀式や踊りもすべてランゲージュであり、これは常に人々の間でのコミュニケーションの道程であることにとどまらず、人間と宇宙とのコミュニケーション(交感)でもあった。」(丸山圭三郎『文化のフェティシズム』1984. 222-3頁)

「(ラングを作り出す視点とは) 共同主観性であった。この意味での事物は、間主体=共同主観的な関係に先立っては存在しない」(同 211頁)

「共同主観的沈殿物としてのラングの体系」(同 212 頁)

バシュラー (1884-1962)

「(古代から継承されている) 根源的イメージ」

「想像力」

「世界は急速に進み、時勢の歩みはますます速い。いまはもうランプの光や手燭の時代ではない。すたれた事物に結びつくのは時代遅れの夢だけだ。このような異議に対して答えることは簡単である。すなわち夢や夢想というものは、われわれの行為ほど急速に新しくなってしまうものではない」(渋沢孝輔訳『蠟燭の焰』13 頁)

カッシーラー (1874-1945)

「シンボルの活動」

レヴィ=ストロース (1908-2009)

「未開 (野生) の思考」

『基礎陶冶の理念に関する見解と経験』(A)

(Ansichten und Erfahrungen, die Idee der Elementarbildung betreffend, 1807)

『基礎陶冶の理念について』(B)

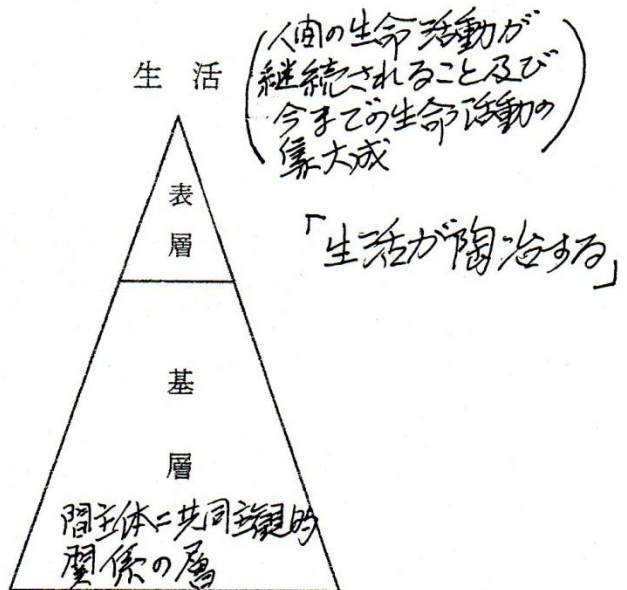
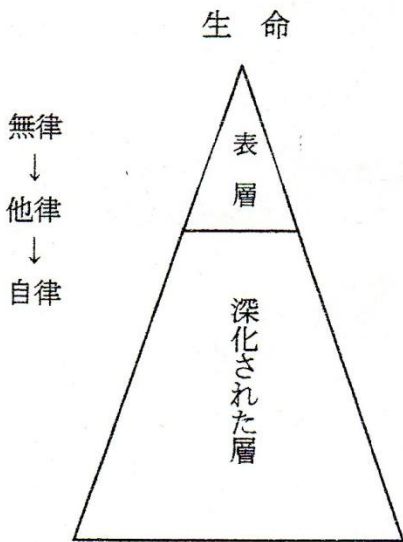
(Ueber die Idee der Elementarbildung, 1809)

— 活気づけられるべき対象 —

「内的な尊厳の感情」「永遠の崇高な内的生命」「内的な力」(A) 「聖なる心の内的生命」「内的な自己感情」
 「内的品位の意識」「内的な永遠なもの」「本性の内的な品位」(B) 「子どものうちなるそれ自体本源的に人間
 的なものや、精神的なものや道徳的なもの」「存在の最初の瞬間から自己固有の発展と拡大とに向って有
 機的に作用し、摂取しながら生産し、生み出しながら形成し造形する現実の生命ある自主的の力」「人間
 性の素質や力」「神的生命」「神性」

「わたしは彼らに教授することだけを欲したのではない。わたしは彼らの生活と行為とが
 彼ら自身を教え、かつそれらがこの自己教育によって、彼らの本性の内的な尊厳の感情
 ～彼ら自身を高めることを欲した」(A)

(平凡社版第二版 第10巻 18頁)



子どもを表層にとどめる制約
 貧しさ
 封建的制約
 ↓
 消費社会
 高度産業社会(情報産業社会)
 家族体験の構造的変化
 根源的イメージの希薄化

子どもがかかえこむ闇
 「暗い闇」
 ↓
 「白い闇」

児童をとりまく問題 1920-2010

1920年代	1930年代	1940年代
<p>1921. 7 内務省の調べで子守り奉公中の少女は全国で91,024人。内14歳未満が54,800人で「将來は子守りに出るから」と、小学校に通ったことのない子が大半</p> <p>1923. 2 内務省の調査で、農村児童の弁当のおかずは梅干しだけが80%。塩ザケが3%</p> <p>1923. 9. 1 関東大震災</p> <p>死者行方不明14万2801人</p> <p>1924. 3 文部省の調べで全国の小学校を優秀な成績で卒業した者は1万8421人、うち9,778人が家が貧乏で中学校へ進学できず。</p> <p>1925. 7 東京放送局が本放送開始</p> <p>1925 ラジオ放送の開始により放送の成立に「秒」の単位が必要となる。</p> <p>1925. 12 日本の自動車製造数は3万4000台。国民2,000人当たり1台。</p> <p>1925. 8. 6 東京、大阪、名古屋放送局が合同し、日本放送協会が設立される。</p> <p>1926 駄菓子屋で1銭玩具が人気。メンコ、ペエゴ、ビー玉、おはじき、ゴム風船、ブリキの豆自動車、着せ替え人形、セルロイドの髪飾り、人形など。メンコは1銭で5~10枚。世界恐慌始まる</p> <p>1929. 10. 24</p>	<p>1930 もらい子殺し、人さらい、人買い、幼年工賃待、児童問題深刻化</p> <p>1931 全国に欠食児童増加</p> <p>1932. 7. 28 東京朝日、文部省調査の記事 「全国欠食児童は20万人突破」</p> <p>1932 2年間に親子心中1419人</p> <p>1933. 4. 1 児童虐待防止法公布 (14歳未満児童の酷使、虐待を禁止)</p> <p>1933. 5. 5 少年教護法公布 (少年の不良化防止と保護観察機能の充実)</p> <p>1939 少年犯罪が増</p> <p>1931 1930年代から戦時体制の影響</p> <p>児童読み物に軍国主義的風潮漫画『のらくろ』少年俱樂部に登場</p> <p>1937. 6 東京都品川で小学校の防空演習初めて行われる。</p> <p>1939. 2 航空少女隊(7~18歳)に応募者殺到</p> <p>1939 軍国童謡流行</p> <p>1930年代初頭からアメリカでは学校恐怖症が認められた</p>	<p>1941 小学校の戦争訓練、女児の担架訓練</p> <p>1941. 12 この頃より少年の工場動員が増加</p> <p>1942. 8. 31 警視庁不良少年の一斉検挙開始 (9.15までに2,200人を取り調べ、計1,857人を送致、少年工の不良化が問題となる)</p> <p>1944. 8. 4 学童集団疎開第1陣上野発</p> <p>1945. 3. 15 大都市の疎開強化要綱決定 (妊婦、幼児の疎開始まる)</p> <p>1945. 3. 18 閣議、決戦教育措置要綱を決定、学校授業1カ年停止</p> <p>1945. 10. 9 文部省、「君が代」合唱・御真影崇拜に関する式次第の規定を国民学校施行規則から削除</p> <p>1945. 10. 10 東京の集団疎開児童佛京開始</p> <p>1946 戦争孤児、引揚孤児、浮浪児童激増</p> <p>子供の遊びにデモ遊び(リングの頃で赤旗をもち練り歩く)</p> <p>犯罪ごっこなど世相を反映した遊びが流行</p>
<p>1872. 5. 29 東京に師範学校設置</p> <p>1872. 8. 3 学制を頒布</p> <p>1872. 11. 9 太陽暦採用 (明治5年12月3日を明治6年1月1日とする)</p>	<p>貧困や戦時体制</p>	<p>貧困、戦時体制、家族崩壊</p>

児童をとりまく問題 (生活体験の変化)

イメージメカニクス上の抑圧要因

参考文献

- 1) 日本近代教育史事典、平凡社 1971
- 2) 下川耿史編『近代子ども史年表昭和・平成編』2002

1950年代	1960年代	1970年代
<p>1952. 8. 8 ラジオ受信契約数 100 万突破</p> <p>1952. 10 個人国民所得 昭和 10 年の 99% に回復</p> <p>1953. 2 NHK テレビ本放送開始</p> <p>1955 日本でも多く学校恐怖症となる概念が知られ始める</p> <p>京都市児童院や大病院精神科で「学校に行かない」ことを主訴とした重篤な障害児に</p> <p>1955~1956 年頃からしばしば接し、分裂症を疑って入院させると数日で症状が消滅する例にも遭遇したという・(稲村 博『不登校の研究』1994. 334 頁)</p>	<p>1960 生活様式の構造的変化が進む (人口流動、核家族化、家庭の電化、都市化)</p> <p>1960 年前後にはどこの児童相談所、児童精神科クリニックも不登校を主訴とする神経症児が見られるようになる。</p> <p>1960 ベビーブームの第 1 号 (昭和 22 年生) が中学校に進学</p> <p>1960 アメリカで“学生無気力症”(アパシー・シンδροーム) 広がる</p> <p>1960. 8 インスタントコヒー等インスタント食品ブーム起る。</p> <p>1960. 9. 10 カラテテレビ放送開始</p> <p>1962 テレビ受信契約数 1,000 万突破</p> <p>1964. 2 スーパーマーケット急増</p> <p>1964 中学校内での対教師暴力頻発</p> <p>1965 「カギツ子」が社会問題になる</p> <p>電気冷蔵庫の普及率 99% 超える</p> <p>「マイホーム」の言葉が普及</p> <p>1965. 6 文部省が長欠児は小学生 5 万 4,000 人、中学生 1 万 6,000 人で、うち半数は登校拒否児と発表</p> <p>1965 シャープ、家庭用電子レンジを発売</p> <p>1967. 7 タカラ、「リカちゃん人形」発売</p> <p>身長 21cm、パパは海外赴任で、ママはファッションデザイナー、5 月 3 日生まれ的小学 5 年生という設定が大人気で、この年だけで 53 万体制れる</p> <p>※1965 (昭和 40) 年の国勢調査は農山村から都市圏への人口流動が一時的異常現象ではないことを明らかにした</p>	<p>1970 年代</p> <p>1970. 3. 6 文部省の調べで、大学紛争の影響で公立大 11 校の学生 3,765 人が卒業延期となる。</p> <p>1970. 2 東京渋谷のコインロッカーで嬰兒の死体が発見される。コインロッカーに嬰兒を捨てる事件がこの年 2 件、1971 年 3 件、1972 年 8 件、1973 年 46 件と急増。捨てられた赤ちゃんは「コインロッカーベビー」と呼ばれる。大卒者が中卒者を上回る。</p> <p>1970. 4 全国で高校進学率が 80% を突破。とくに女子の伸びが著しく女子の進学率が男子を上回る県が 34 都県に。</p> <p>1971. 11 文部省の調べで大学生 (短大生を含む) が初めて 170 万人台を突破。幼稚園児を上回り、4 人に 1 人が大学に進学</p> <p>1972. 2 浅間山荘事件</p> <p>1972. 11 日本中がテレビに釘付け。</p> <p>都市の過密化、環境の悪化による遊び場がなくなり、デパートで遊ぶ子どもが増加</p> <p>1973. 4 大学進学率が 30% を超す。</p> <p>高校進学率は 90%</p> <p>1973. 12 茨城県で、女子小学生 3 人が精神安定剤を飲み校舎 3 階から飛び降り自殺。自殺の低年齢化が社会問題になる。</p> <p>1974. 11. 17 大分県別府国際観光港で乗用車が海中に転落。3 人死亡。運転していた荒木虎美元被告 (平成元年死亡) が妻子 3 人に約 3 億円の保険金をかけていた。(保険金殺人事件)</p> <p>1977. 10. 30 開成高校生殺人事件</p> <p>1979. 1. 14 祖母殺し高校生自殺事件</p> <p>※山村の過疎化が進み、小学校の廃校が増える</p>
<p>※過疎問題の始まり</p> <p>昭和 42 年 10 月 経済審議会報告</p> <p>「昭和 30 年代のわが国経済の世界にもまれな高度成長が、地域経済に与えた影響はきわめて大きなものであった」一三つの問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域格差問題 2) 人口急増地域の過密問題 3) 人口急減地域の過疎問題 	<p>1965 家族や地域における共同体験や労働体験の減少化、家庭機能の縮小化による家族体験の変化</p>	<p>家庭機能の縮小化による共同体験不足の進行</p> <p>受験競争、競争社会</p> <p>「食卓のない家」(円地文子)</p> <p>「子どもたちの復讐」(本多勝一)</p>
<p>児童をとりまく問題 (生活体験の変化)</p> <p>イメージメカニズム上の抑圧要因</p>	<p>貧困、食料、物資不足</p> <p>親の学校観の変化</p>	<p>家庭機能の縮小化による共同体験不足の進行</p> <p>受験競争、競争社会</p> <p>「食卓のない家」(円地文子)</p> <p>「子どもたちの復讐」(本多勝一)</p>

1980年代	1990年代	2000年代
<p>1980 子どもの五無主義という言葉が流行（無気力、無責任、無関心、無感動、無作法）</p> <p>1980. 10. 11 総理府が「家庭内暴力に関する調査研究」を発表</p> <p>1980. 11. 28 金属パット事件</p> <p>※ 川崎市で2浪中の予備校生が両親を金属パットで殺害</p> <p>自動車の高国内生産台数は1,140万2,884台で過去最高。アメリカを抜き世界一に。</p> <p>1981. 4. 9 警察庁調査で、前年に全国の警察が相談を受けた家庭内暴力は1,025件3分の1は中学生。</p> <p>1981. 4. 29 文部省「校内暴力事件についての事例集」をまとめる。教師や学校側にも責任があることを明記。</p> <p>1981. 8. 5 全日本中学校校長会が校内暴力について初の全国調査をまとめる。</p> <p>1983~1984 約6割が暴力発生の可能性を報告</p> <p>国立教育研究所で「校内暴力を中心とする少年非行の史的変遷と原因の分析に関する研究」が共同研究として実施される。事例研究は全国13都道府県の公立中学12例と私立中学4例でなされている。</p> <p>1985. 10. 23 文部省の「児童生徒の問題行動実態調査」で校内暴力は沈静化、いじめ、登校拒否が激増と報告。</p> <p>1986. 2. 1 東京都中野区立中野富士見中2年の鹿川裕史がいじめを苦に自殺。「生きジゴク」と遺書。</p> <p>1987 マンガ雑誌は全部で170誌、うち子ども、少年少女向けが46誌</p> <p>携帯電話が登場</p> <p>1988 学校の友人にたいしても距離感を置いて「おたく」と呼びかける若者が増加。おたく族。若者の自閉的傾向を指す言葉として広がる。</p> <p>1989. 7. 23 東京八王子署に印刷手伝いの宮崎勤(26才)が強制おいかせつ疑いで逮捕される。連続幼女殺害事件。</p>	<p>1991. 5 東京世田谷に「子どもの虐待110番」が開設される。12月までの相談は約800件。ほとんどの加害者が母親だった。</p> <p>1993. 1. 12 総務庁『青少年白書』で個室を持つ中2が昭和61年の48.7%から57.3%に増加。専用電話を持つ大学生は44.1%</p> <p>1993. 12. 27 昭和60年度をピークに減少傾向にあった公立中学校での「いじめ」の発生が平成4年度(1992)増加に転じていることが文部省調査で判明。「校内暴力」も最多を更新、1980年代前半の水準に逆戻り。</p> <p>1994. 5. 22 子どもの権利条約が日本で発効。</p> <p>子どもも18才未満と規定、保護の対象から権利の主体を捉え直す。</p> <p>文部省が「いじめ対策緊急会議」で学校に総点検をよびかける。</p> <p>1995. 3. 13 文部省の「いじめ対策緊急会議」がいじめられた子どもたちの学習権を守るため、いじめっ子に出席停止などを求める最終報告書を提出</p> <p>1995. 3. 20 地下鉄サリン事件</p> <p>1995. 12 文部省の調べで全国の公立小・中・高校の「いじめ」の件数は過去最多の6万件。</p> <p>1997. 5. 26 法務省人権擁護局が「小学生の生活に関するアンケート」結果を発表。</p> <p>いじめを受けたことがあると答えた小学生が4割を超えていることが判明。</p> <p>1997. 5. 27 酒鬼薙草事件(14才の中学男子)</p> <p>1999. 7 春奈ちゃん事件(東京都文京区)</p> <p>1999. 7 文部省の「学級崩壊」の調査で、約7割が教師の指導力不足と判明。</p> <p>1999. 11. 10 東京都の「子ども基本調査」で、小学生の65.5%が「友人にむかいついたり、イライラする」、58%が親に対して、52.1%が先生に対して同じ感情を抱いていることが判明。</p>	<p>2000年代</p> <p>2000. 3. 31 全国の小学校で、警察に薬物教育を依頼したところは1,894校</p> <p>2000. 4. 12 東京都教育庁がいじめや学級崩壊に対処するため、小学校の教員に社会人の採用枠(30人前後)を設ける。</p> <p>2000. 4. 5 名古屋市中、15才の少年が中学の同級生から5,000万円以上脅し取っていたことが分かったと逮捕される。</p> <p>2000. 5. 1 愛知県豊川市で高3の少年(17才)が「人を殺す経験がしたい」と主婦(65才)を刺殺</p> <p>2000. 8. 24 文部省が平成13年度(2001)から全国約1万の公立中学にスクールカウンセラーの配置を決定。</p> <p>2001. 6. 8 大阪池田小学校事件</p> <p>2002. 10. 4 4中学生が愛知県立児童自立支援施設から職員殺害逃走</p> <p>2003. 7. 1 長崎市の中学1年生がいたずら目的で幼児誘拐殺害。</p> <p>2004 暴力団役員が少年らを使って組織的に振り込詐欺を繰り返した疑い。被害総額100億円以上。</p> <p>2005. 1. 26 佐世保小6児童殺害事件</p> <p>2006 元パナコ御殿(2001年から廃屋)で起きた中学生少女殺人事件(岐阜県中津川市)</p> <p>2008 秋葉原事件(25歳の青年)</p> <p>2010 一連の児童虐待事件</p>
<p>児童をとりまく問題(生活体験の変化)</p>	<p>「暗い闇」から「白い闇」への変化が浮き彫りになる。家族や地域における共同体験不足が一段と進む。受験競争、競争社会、家族崩壊</p> <p>「純粋子どもたちの復讐」</p>	<p>「白い闇」への心理的变化が進行</p> <p>共同感情体験不足が一段と進行</p> <p>地域崩壊や家族崩壊の進行</p>
<p>イメージメカニズム上の抑圧要因</p>	<p>共同体験不足、受験競争、競争社会</p> <p>「家庭のない家族」(小沢永治)</p> <p>「純粋子どもたちの復讐」</p>	

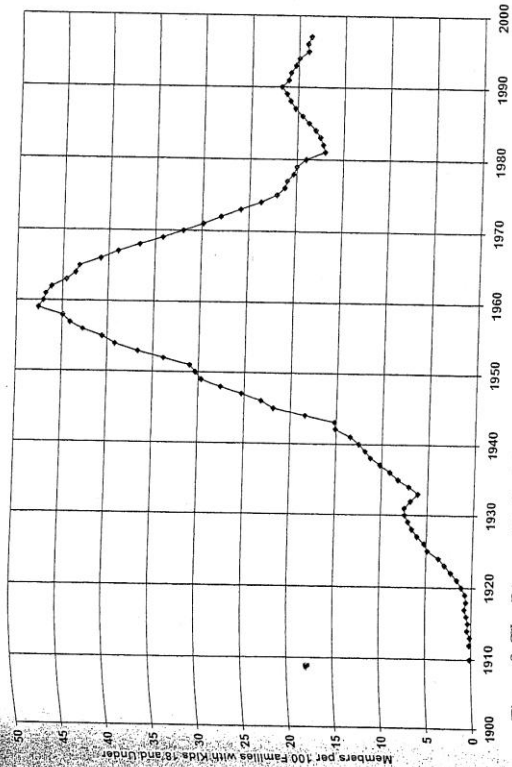


Figure 9: The Rise and Fall of the PTA, 1910-1997

R.D. Putnam: Bowling Alone, 2000

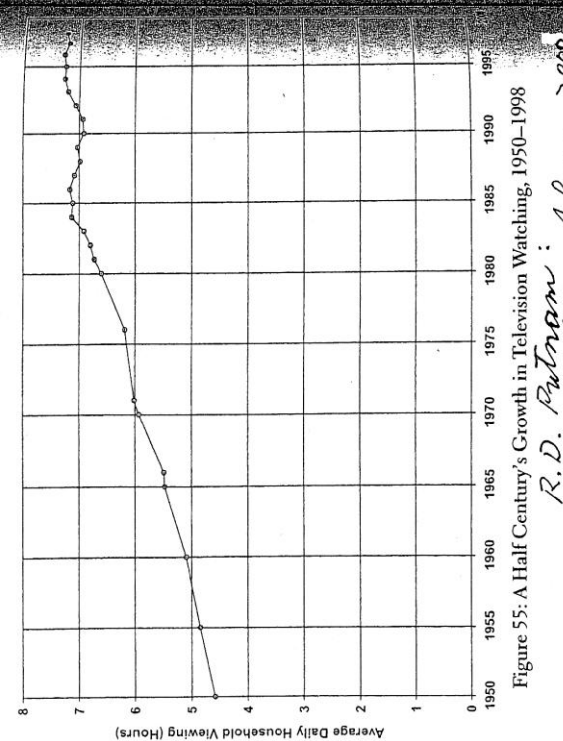


Figure 55: A Half Century's Growth in Television Watching, 1950-1998

R.D. Putnam: A D... 2000

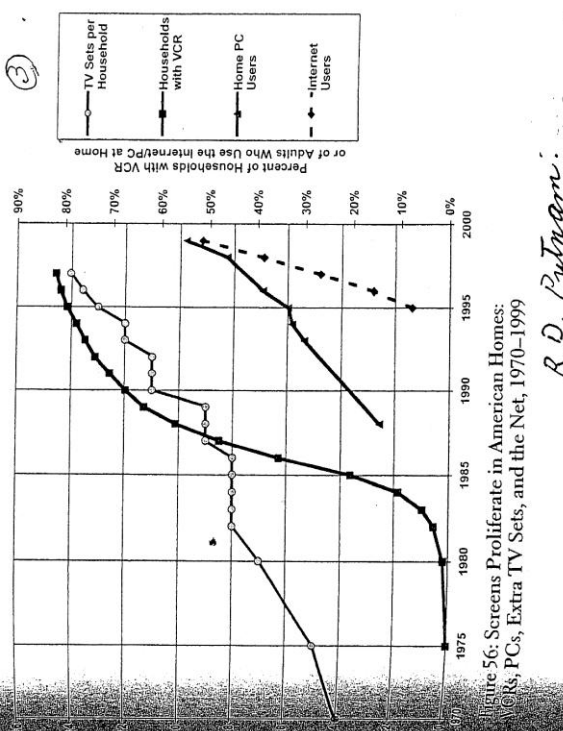


Figure 56: Screens Proliferate in American Homes: VCRs, PCs, Extra TV Sets, and the Net, 1970-1999

R.D. Putnam: A D... 10